地域がん登録情報の活用

田中 一史
滋賀県立成人病センター　医事課
疾病・介護予防担当　参事

滋賀県の全がん患者登録管理事業（以下、地域がん登録）は昭和44年に開始され、その後止まることなく粛々と続けられてきました。私は10年ほど前から院内がん登録に携わってきましたが、平成21年度から地域がん登録も担当することになりました。以来、国立がん研究センターや大阪府立成人病センター、放射線影響研究所の先生方にいろいろとご指導いただきながら、なんとか業務をつなげています。

昨年度から、大阪府立成人病センターの呼びかけにより、近畿ブロック地域がん登録会議が定期開催されるようになりました。近畿および周辺県の地域がん登録関係者による貴重な情報共有の場となっています。ここに参加するようになって、ようやく「地域がん登録」のことがわかってきたように思います。特にそのきっかけとなりましたのは、大阪府立成人病センターがまとめられた「統計でみる大阪府のがん」という冊子を拝見したことです。がん対策基本法施行等により「がん登録は重要である」ことを理解している人は増えていますが、実務を担う私たちは「何故がん登録が重要なのか」「がん登録情報をどう活かすのか」を問われても、なかなか具体的に答えることが出来ませんでした。これは「実績がないこと」に他ならないのですが、「実績」が何であるのかもよくわかっていなかったように思います。

「統計でみる大阪府のがん」では、今後のがん対策に今までの情報集積を見事に活用され、がん対策計画と目標が視覚的にもわかりやすく示されています。地域がん登録情報の活用法だけでなく、その価値を再認識することが出来ました。また、がん対策を進めている行政の担当者との調整・協力が重要であることも教わりました。この冊子を手本に近隣府県が取組めば、地域集計や比較が出来るようになります。目標を定めて、出来るところから始めてみようと考えています。

滋賀県のがん対策推進計画は5年目を迎え、今年度はその評価と次期計画策定の年です。大阪府に何とか追いつけるよう努力し、がん対策の根拠となるがん登録情報を集積できるよう力を注いでいきたいと思います。

滋賀県がん対策推進計画:分野別目標（抜粋）

地域がん登録の精度向上　目標:DCO13%以下、DCN23%以下

■2008年罹患仮集計:DCO11.3%、DCN25.7%
■改善策:①遡り調査を実施（約4,500件、回収率約73%）
②近年届出が減少している医療機関に出向き、2008年診断分の届出を促した。

拠点病院における5年生存率の公表　目標:すべてのがん診療連携拠点病院

■地域がん登録情報の精度が目標達成の鍵。
■今年6月より生存確認調査（約9,500件:2003年～2006年罹患分・5年予後調査）を実施。

平成24年度学術奨励賞を受賞して

松田 智大
国立がん研究センターがん対策情報センター
がん統計研究部　地域がん登録室　室長

この度、栄えある学術奨励賞を頂き、関係者の皆様に心から感謝しております。高知での発表でお話した通り、私は1996年に渡仏して地域がん登録に関わるようになり、現地の地域がん登録データを用いて様々な研究に携わりました。そこでの経験と比較すると、確かに日本では、地域がん登録分野での学術的活動は余り盛んであるとは言えませんが、それは単純にデータリンケージの実施可能性などが理由ではなく、日本の関係者に、日本の地域がん登録は、他国と比較して遅れているという固定観念があることも原因のように思います。がんの実態把握に関する意識、個人情報保護の精神、サイエンスリテラシーや公衆衛生の概念、将来のがん患者のためという互助の精神、登録業務における緻密さ、いずれにおいても日本は、他国に優りこそすれ、劣っている点は見当たらず、がん登録向きの国であると思っています。実際、2006年にがん対策基本法成立して以来、がん診療連携拠点病院の認定と院内がん登録の整備によって、我が国のがん登録は着実に進化しています。むしろ、他国の「データが誰でも自由に使える」状況に対して、安全管理措置が徹底されていないのでは?と疑問を呈する「生意気くらいがちょうどいい」と思います。日本のがん登録資料を用いた研究活動では、論文にstudy limitを書いて必ず「我が国のがん登録は精度が低いので…」というような自虐的なことを書かなければいけない風潮がありましたが、私達の世代でこの因習を断ち切ることができるよう、頭の中を切り替えていきたいと思います。

国立がん研究センターに異動してから、以前のような研究らしい研究ができず、キャリアの先行きも不安な毎日だったところに、今回の賞をいただきました。このような私が同賞を頂き恐縮の極みですが、これを励みに、再び研究者としてのアイデンティティを取り戻して、研究活動を進めていきたいと思っています。頂いた副賞金では、流行からは3周くらい周回遅れですが、iPadを購入し、論文PDFを閲覧するのに役立てたいです。